

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【河合小・中・中等教育学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】算数「数と計算」の領域において、正答率が低い。 【指導上の課題】児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【週2回の朝学習で実施】。その際、児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1・2度の自習学習タイムで実施】。
思考・判断・表現	【学習上の課題】国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、各学年共通の課題がみられた 【指導上の課題】児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒ 活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りを活かし、授業時には、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で5～10分実施】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。特に、「話し言葉と書き言葉との違い」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「文の中における主語と述語との関係を捉える」への理解が不十分な児童が多く、文を構成する語句が増えると正答率がさらに低くなる傾向がみられた。算数の「数と計算」「データの活用」に課題がみられた。特に、「除数が小数である場合の除法の計算」や「速さの意味」についての理解が不十分な児童が多く、問題後半になるにつれて正答率が低くなる傾向がみられた。	
思考・判断・表現	国語の「話すこと、聞くこと」に関する問題で、『目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる』に課題がみられた。昨年度の調査においても、同内容において正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。算数の「変化と関係」の領域について課題が見られた。また、「立方体の体積の求め方」「言葉や数を用いて記述」「表(グラフ)から必要な数値の読み取り」への理解が不十分な児童が多い傾向がみられた。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週2回の朝学習以外(授業中・宿題等)でも「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を積極的に活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。月に1・2度の自習学習タイムでは、学習計画(家庭学習)を立てる時間を児童が設定するまでの一連の流れを取り組むことができた。	児童の学習履歴を確認しながら、個別にて学習計画(家庭学習)を立てる部分が不足していた。学習履歴等の情報を各自が十分に把握し、利活用していけるような体制を整える。
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができた。	振り返りを活かし、授業時には、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場面づくりが不十分であったため、学校全体で取り組めるよう研修等で情報交換・共有を行ったり、学校としての方法を検討していくなど実践を進めていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)